

二十二百五十九

1526
1-5

紅色雜話序

余奉崐陽先生之遺教從事於荷
蘭醫學也久矣以月池桂川公素
長於其學子日相共研究且旁及
他二三同好之士習會肄業以
為世興利當其繙閱其書考索
其義之時殊譚奇說暫接乎心
目之間者亦以和漢羣之措之所未
記載古今衆賢以未論及者不使

芳蘭
藏書

紅毛雜言
讀者爽然自失者幾乎鮮矣近年
應客需授采錄之區分類聚以為
一小冊名曰遠西新話後游崎陽與
譯官諸子周旋其交雖云際所目
以了隨得隨筆不覺成編名曰奇
之四大皆一時漫錄未脫稿者唯其先務
之別有所急而未遑繕寫每以為憾矣
頃日公弟萬象亭主人著紅毛雜話
以示余且俾序其首末取而觀之

有是哉何其舉之實獲我心也吁
嗟世之好事者二眉之截五車之
富汗牛充棟以示其博豪寧知者
若是甚矣偉譎瑰者身則是編以
資談柄不亦愉快乎然後乃今萬
象亭之切人焉度哉若天資穎敏學
談和漢才妙迹作費口吐華年以筆
則文不更點至稗官小說其撰不暇
樓指如是編唯自非公以習聞之奕

世之所傳說輯錄以塞書肆之請
耳然近以予之學更又覃志於歐羅
巴之書也則君之才之美且敏其成
可舉足而俟今是編也唯其嚆矣
也夫

天明丁未之夏 玄澤 大槻茂質撰



東洲

左潤書



紅毛雜話序



家身中良著紅毛雜話
其所記載率皆吾黨之
所口得諸蘭客涉諸象脊
而居恒所群萃相話說及
其所藏觀諸西岳稽諸

系籍而間遊而製造以自
斃者毫無濫妄今而繡
之其圖其說殆乎足以
說身目快神志矣然又
情賤適者不得視猶遊
禽焉誰居行之又倘復有

不難助視之者邪此吾
所以不深拒也

天明丁未季秋十三日月池
桂川甫周國瑞撰



凡例

○此書ハ我伯氏桂川國瑞法眼。

公おほきの御許みもと 御書おんがき 御書おんがき 春はる毎ごと小参せうさん向むかまま。紅毛人べんごじんの
 客舎きやくしゃ小せういいりり 藥品やくひん比ひ堅定かんとい書しよの不ふ意いなりなりと。
 釋おき也や重おもて対たい論ろんの販賣人はんばいじん乃な流ながりりししるる 雜活ざつかくに
 臨りんららるる事ことああれれ。今いま白しろなりなりんんかからら奇き法ぽうをを
 同どうししるるなりなりとと。いいららししものものいいららししとと唯ただめめはは
 控まもりりもも不ふおおふふれれ。いいららししものものいいららししととののああららしし事こと。又また
 多おほくく彼國あつこくの書かきまわるる人ひと等ら比ひ集あつはは日ひあありりと。
 其そのにに小傳せうでんりりてていいららししるる事こと也なり。等らのの隨したがひひ

工毛雜言

に記れあつたりする報福ありて。もしよりおほや事小
 まるほまきこものにつくじ。さうふは此度申椒堂の至の
 わかづられ需め盡し。十と一と抽出し。紅毛
 雑話と標記して梓め彫む事とありぬんと
 用ひぬ虫持の意書のまゝに写し。まは。文は雅俗
 紛雑す。されども法を所の況みかいつくは。いさ。りも
 手付七女なり。

○此書中平假名はとくくせし中。小行假名りくせ
 するハ紅毛活きなり。從上下の文。混せざるんが
 ありぬ。しかくのこしに点はきなり。

○二字一十音の假字ハ。二字と合書し。一十音のこくも。

「名」^{ひき}「ヤ」^{ひき}「正」^{ひき}かどめぬ。解ハ推く知盡し。

○「呼」ハ「ア」^{ひき}「イ」^{ひき}「ウ」^{ひき}「エ」^{ひき}「オ」^{ひき}とて。去たり。

○「促」ハ「カ」^{ひき}「キ」^{ひき}「ク」^{ひき}とて。つの小字を添へたり。

○摺く外國の名ハ。明人の書法を。文と用也。
 さ。ご。あ。さ。る。ものハ。行假字を。て。き。し。

以上六條

紅毛雜話總目

卷之一

- 和蘭陀の因^ハ蘭^ラ ハラントの因蘭
- 料理の献^キ立 キダテ
- 風土記 フツキ
- 夜國の鴉^カ カ
- 煙草 タバコ
- 南無阿弥^ナ无^ム仏^{ブツ}の名 ナムアミ無仏の名
- 鼻^ハ草 ハクサ
- 左右乃^サ子 サダコ
- 法^ハ葉^{エフ}海^{カイ}斯^シの正月 ハエフカイシの正月
- 菴^アの^ノ説^{セツ}无^ム喝^{カク}叭^ハ國^{クニ}の アノノセツムカクハクニ
- 北海の大魚 ホクカイの大魚
- 夜國^カれ^レ昼^ヒ夜 カレレヒヤ
- 緑^{キナンド}色^{シキ}乃^ノ鴉 キナンドシキノカ
- 黒^ク坊 クハク
- 黒^ク坊^ノ手^テ拭 クハクノテシ
- 王^{オウ}坊^{ハク}側^{ソバ}ノ^ノ行 オウハクソバノノウ

工
二
佳
告
恩

○馬坊の異見

○馬鹿の親名

○胡鬼板五羽根の名

○海上に神火

○人肉成喰ひ虫

○貧院

○幼院

○病院

○ヒクトレキップ名説

飛行の船

卷之二

○鳳凰の説

○弗尼思

○都兒格の都城

○飛龍記

○天鷲絨

○吳越山の名説附釈迦

如來の傳目

○生別死別

○唱蘭人の葬式

○紅毛の喪服

○黒坊の葬儀

○西洋細糸花布

○木乃伊名説

○鉄砲名説

○切腹乃事

○ホーキーの病症

○男色に禁制

○アシペラ

○瓜哇に風土記

卷之三

○和蘭陀より日本まで海路乃記

○釋迦の名附佛の金色

○支那に文字

○紅夷國乃名

○火浣布

○ループル島式
○日本の國名

○雲船の石火矢
○顯微鏡附其の器説

卷之四

○疫癘乃フク濫觴フク
○鞠あひひの儀

○阿羅漢あらかん仙人あまの天竺あまのの額
○鞆たもとの圖説

○紅毛人の給金

○獅子乃圖説

○和菓院わがの画法あまの附あまの羽板あまの此法

卷之五

○ワートルあまのハルあまの十あまのス水鏡
○蹴鞠あまの

○遊女
○仙あまの指あまの機あまの此名義

○摩あまの利あまの支あまの天

○エあまのレあまのキあまのテあまのルあまの器説

○コあまのスあまのトあまのホあまのレあまのテあまのイあまのレあまの器説

○大船

附録

○紅毛服飾圖板

目次終

紅毛雜話卷之一

東都 森嶋中良 編輯

○阿蘭陀の閉國

紅毛の閉國ハ日本めてハ人皇十一代垂仁天皇三十一年
唐めてハ漢の平帝元始二年にあつて今年天明七
年まゝ千七百八十七年たり。彼國年号か。閉
國より何年と云ふを以て唱ふ。

○和蘭陀の正月

「ラーク」

「ゲールタルトル」

「スペナトシ」

「ブライトルボツク」

「ハルトベースト」

「ブライトルエントホーゲル」

右よりくまきて細毛織ぬ
包ニヤレ

熟しき丸ウチ
おひしけ
福ぎ
らやーらんたい

みんぎん
油をて揚醬油めて煮ちち

菜
みらん小しき「ポートル」
にてぶらと揚ておひしけ
乳酪

あま
やらりあーりあせ

野牛の殺丸ヤレ

麻の殺丸ヤレあてからー
破しナ

鴨丸煮

海老ご

花の殺丸

紙焼かまてり

細毛織とちあめれまて
うのゆつき焼あべの中へ
あてて焼るあり

あま
お菱粉

右あましく揚りませりの
ちて鐘のしく揚を油めて
揚るあり

菓子の名

同

「ケレヒトソツプ」

菓子

「カステイラブロー」



「スペレツ」

「ポーフルキス」

「タルタ」

新編 雑言 卷之二

ダラーカ之圖



中良自画

畫^{ガク}の形勢^{かたち}あて^てる^る不足^{じふそく}場^ば能^{のう}と^らう^うして、
 刺^さ殺^{ころ}さん^ども^も皆^{みな}あり。杉^{すぎ}板^{いた}珠^{たま}の外^{ほか}紛^ま雑^{ざつ}の^たま^まを^あら^わす^る
 流^{なが}河^が園^{えん}ど^ろと^もや^りあ^まま^ま其^{その}ダ^{ラー}カ^カも^も所^{ところ}産^{のう}た^たの^{もの}物^{もの}と
 同^{おな}じ^じ肉^{にく}質^{しつ}回^わ是^ぜわ^り。故^ゆ此^こ産^{のう}た^たを^しら^る。喝^{かく}々^々
 の^の酒^{しゆ}ハ^ハ南^{なん}極^{ごく}出^{しゆ}産^{のう}地^ち三^{さん}十^{じゆ}六^{ろく}度^ど日^に本^{ほん}と
 人^{ひと}倫^{りん}の^の送^{しゆ}洋^{やう}の^の地^ち也^{なり}。故^ゆ他^たの^の法^{はふ}も^も知^しれ^るを^しら^る。嶼^{しゆ}の中^{ちゆう}
 ぬ^ぬ住^{ぢゆう}居^こも^も。熟^{じやく}の^の皮^{かわ}河^がが^が小^{せう}ま^まと^とひ^ひて^て衣^いぬ^ぬ之^の粒^{つぶ}食^くの^の方^{かた}
 を^を知^しれ^るを^しら^る。熟^{じやく}を^を射^{しや}殺^{ころ}す^る。生^{なま}あ^あら^らう^うを^を肉^{にく}河^が令^{れい}合^{がう}
 と^とし^しら^らう^うハ^ハ上^{じやう}の^の酒^{しゆ}也^{なり}。故^ゆ其^{その}熟^{じやく}の^の皮^{かわ}河^がハ^ハ臺^{たい}船^{せん}の^の身^み
 ぬ^ぬを^を酒^{しゆ}也^{なり}。故^ゆ其^{その}熟^{じやく}の^の皮^{かわ}河^がハ^ハ臺^{たい}船^{せん}の^の身^み

江毛雜言 卷之二

何國の海の大魚「ニコラコス」にして、彼大魚の脊より
水面に浮び、海流に任せ、舟を自ずから流し
あんなに流るゝとあり。よからう、疾風の舟も
— 小文小作り。横文の舟も流して送りぬ。今
て文庫の舟り。げ大魚の舟、ハ「ワールトブーク」の
流るゝ。又舟りまゝ、半舟り、と。按に、昔邦
蝦夷の海底ありて、雷の如き雷きけ、舟り
海舟舟舟り、と。舟りも、あつて、舟り、
舟り。是の舟り、と。大魚の海舟舟り、と。
よ— 舟り、と。舟り、と。舟り、と。

「ニコラコス」の形あり。

○夜國の鴈

伯氏右の蛮人「シキテラ」に、雁は春夏の内、何れかの
住るやと問。答て云。北極出地五十度以上の地は、四季も
小雁より、二十度以上、赤道より、所少、四季も
舟雁の舟り、と。舟り、と。舟り、と。舟り、と。
了の後の南方、周の舟り、と。舟り、と。舟り、と。舟り、と。
あり、舟り、と。舟り、と。舟り、と。舟り、と。
あり、舟り、と。舟り、と。舟り、と。舟り、と。
あり、舟り、と。舟り、と。舟り、と。舟り、と。
あり、舟り、と。舟り、と。舟り、と。舟り、と。

の何れも一處に居るものなり。人々見まはされ
き。そのよ跡を常磐の國の考わたり。多ふ月ありしハ
賢きも。真臘（えんろう）風土記云。所無雁（むらさき）黃鶯（わういせ）杜宇（とよ）燕（つら）鶻（こ）之屬
ニミ。真臘八九度より十度まで。ニミ。一ミ
あり。赤道迎きわたり。ハ雁の母事明くあり。

○夜國の晝夜

シキンテラ（シ）云。春分より秋分までハ東なり。黄昏（たそがれ）と
の雀色（うさぎ）より今（いま）少（すく）一暗（くら）。秋分より春分まで
ハ昼あり。日よきとき。虫の息。さあで。明（あ）きき。ハ。日
輪の大き。鬼燈（おにとう）竹（たけ）籠（かご）ハ。見えて。世（よ）後（ご）あり。海（うみ）の

面と國（かみ）アあり。あり。

○淡婆姑

万国用ぎる。不かく。其名何れ。も。同ト。其の委名ハ
ペト（ペ）ト（ト）と。ハ。タバ（タ）ト（バ）と。ハ。北亞（きたあ）利（り）加（か）の内の小海の名
なり。ヨハ（ヨ）子（し）ス（ス）ニ（ニ）止（し）との蛮人。其海より。種（たね）ハ。携（たづ）へて
歐羅巴（おろば）子（し）種（たね）より。流（なが）し。傳（たづ）へ。ハ。あり。種（たね）を。後
一。初（はつ）一。ハ。世の内の。ハ。の。遅速ある。の。大抵
同。代（しろ）の。ハ。一。奇事（きじ）と。ハ。一。ハ。ハ。ハ。
女澤子著所の葛志に。あり。

○緑色の鳩

新編新語

鱈の卵たまごは梭魚さげの行なや冷ひやめてかへきまをれを。緑色の鱈
はしらりあり。蚕書さくの尻しついよ。

○南無阿弥佛の名

「ナム」といふハ要語にて答こたしハ事ことなり。天竺の
人阿弥陀佛アミトト云いふ。南無阿弥ハナムアミト
にて名阿彌アミトトと云いふ。佛ブツト云いふ要語なり。
彼邦かなたにて「おと」といふ人ひと家いえ足あし洗せんれたり。

○馬坊

海中連つら來きる所の馬坊ばぼうの事ことハスワルトヨングト云いふ。
スワルトハ馬うまきまのヨングトハ若わか者ものト云いふ事ことなり。主國しゅこくハ

南海の内。咬くわ啗たん巴榜あばう葛刺がさヨレイス。プーギス。コロル。其
の土人つちびとあり。甲か也や逆さかき圓まみせり。灰色こがしにして赤あかき
あり。相對たいたいして紅べにも入いみ抱かかえり。其そのもあれ。其その人ひと
ハ其國そのくにの人ひと也なり。幼少せうせうの児こ也なり。其その人ひとハ
赤あか也なり。性しやうあかくまでむるる。法はうカの者ものト云いふ。
常じやう赤あか也なり。音おんと云いふ。赤あかと云いふ。決けつして食くせしる。鷲じゆも
自みづかり殺ころして。以もつてくする。其その物ものハ其その食くひ
も四足しすくの内うちにて牛うしもあり。其その天竺てんてく地方ちゆうほうの者もの
食くひも其そのあり。文ぶんも其そのハコレコレト云いふ。其その人ひとハ其その形かたち
其その人ひとに似にたり。是こゝハ蚕さく人ひとト云いふ。其その人ひとも其その形かたち

江毛雜話 卷之二

終手録言 卷之一
〇へ修くふ。移んごうふ永むねハ。移くの戒行ありて。
生涯承ととら。何くのふゆ合や。と。誓言云と云。
させ。そのとめて修めとあり。彼等が洞に。人の立。
落ぎてま。あま。時「ヤガニヤ」いと。りて。割り。
「ヤガニ」ハ。莫のま。ヨイ。ハ。哉。と。ハ。申。あて。と。と。あ。
半。ふ。れ。と。り。の。ま。ふ。あり。日。む。し。と。や。ま。し。い。を。
り。ハ。毛。茸。の。物。く。あ。く。と。玄。は。子。修。し。ま。

〇鼻草

馬坊ハ大がい鼻低。其あやうとあねハ。彼信鼻の
ひきう。な。修。ふ。あり。あ。よ。初。多。き。時。鼻。押。平。草。の
細。く。ま。り。し。と。か。げ。鼻。成。長。の上。あ。て。ら。ぬ。鼻。
あり。ず。ね。う。と。あ。ね。彼。比。方。の。玉。人。等。た。い。て。い。
じ。げ。鼻。あ。て。ら。ぬ。長。細。ハ。ノ。イ。ス。バ。止。と。ら。ハ。ノ。イ。
ス。ハ。鼻。ノ。ト。止。ハ。草。の。香。活。あり。

〇黒坊の拭

馬坊の次。ハ。裏。む。ぬ。ら。ま。の。あ。き。と。の。ば。馬。坊。ハ。し。カ。
フ。ター。ガ。止。と。ら。よ。サ。止。ハ。掃。ろ。の。カ。マ。い。と。い。の。ゆ。て。
日。本。よ。云。ふ。拭。あり。蟻。形。め。て。摸。板。ハ。是。藍。ま。て。浮。抜。
く。ら。あ。り。ぞ。深。方。何。ラ。ス。止。と。ら。ハ。世。に。馬。坊。更。
紗。南。京。更。紗。と。唱。ふ。と。あ。り。と。玄。は。子。修。ら。れ。ま。

○ 丸右の子

黒坊右の子は早立ち丸右の子と云ふ右に利徳よく
清輝のふくもあづかればあり。依ておぼわすふくま
右の子として世を懐びててまぶさし。林子平子の通説
他者 孟詵の 抄あり。

○ 黒坊剛一行

黒坊 喜徳一は剛トシキ小き毒丸の伴入て推しトシキ兼トシキ河
放トシキくは清輝共あめして清トシキくあり極トシキむかひ
くも丸のふりなり。其トシキふ水毒トシキは養トシキめり。子所附
くはおぼわす。いしるふは物トシキありおぼわす。同人の

活トシキちりり予をまは去方へまトシキり。人挿トシキは
ぬむ人あづかればトシキは物トシキをけり。紅トシキを焚トシキのむ瓶
のまトシキも養トシキくは清輝共あめして清トシキくあり
養トシキくは丸右一は清輝共あめして清トシキくあり
黒坊トシキのふくもあづかればあり。依ておぼわすふくま
右の子として世を懐びててまぶさし。林子平子の通説
他者 孟詵の 抄あり。

アツク多セヨヨシ仕也ハおあり。よくいふ通と明
くく人小ぢねまきりあり。

○馬坊の美見

去はふ云。彼馬坊の多きと「キー千イパン」
「キー千イ洗り」ハ「タ」ハ「尻」なり。まよけ
可美斬
あり。先年出立くみ所所連なり。馬坊あり。
小児の疾あまあま比よりキキと去て長流して成長
これ
バシク日本内の子立あまひり。親の馬坊
あり。あていしく。伊予も日本内ふあり。馬坊ハ
馬も洗ひするまらと云ふ所。まよ居合をてまら

者ハ大め後節をよらるるあり。

○馬鹿の沢名

赤見の立流めて内心悪ある人の仇名所
あて
ハ「アウ」より「アウ」ハ孔雀の多あり。彼多
え附の
うらまのそめて。何のぞくあまらざる
あまらるる
云あり。家見ヤされま。

○羽子板お板

馬坊の弄あそびあり。西洋鍍して采ひま噴たう付ちきぬ
子
洋つきして遊あそぶあり。おる板と「ラネト」
とら。お板
と「ウーラング」
とら。形姿の如し。

ウーラング之品

大サ島のやいねの揚らうの矢ねのちきよ色の漆ねあり
下の袋は白き革めて包み中ハヨルクとくハ朽木なり
蹴鞠のやくはりより革の合目の上へ赤き毛織の世縁
ハ十文もたそより



ラケット之品

長サ一尺七八寸縁曲物あり

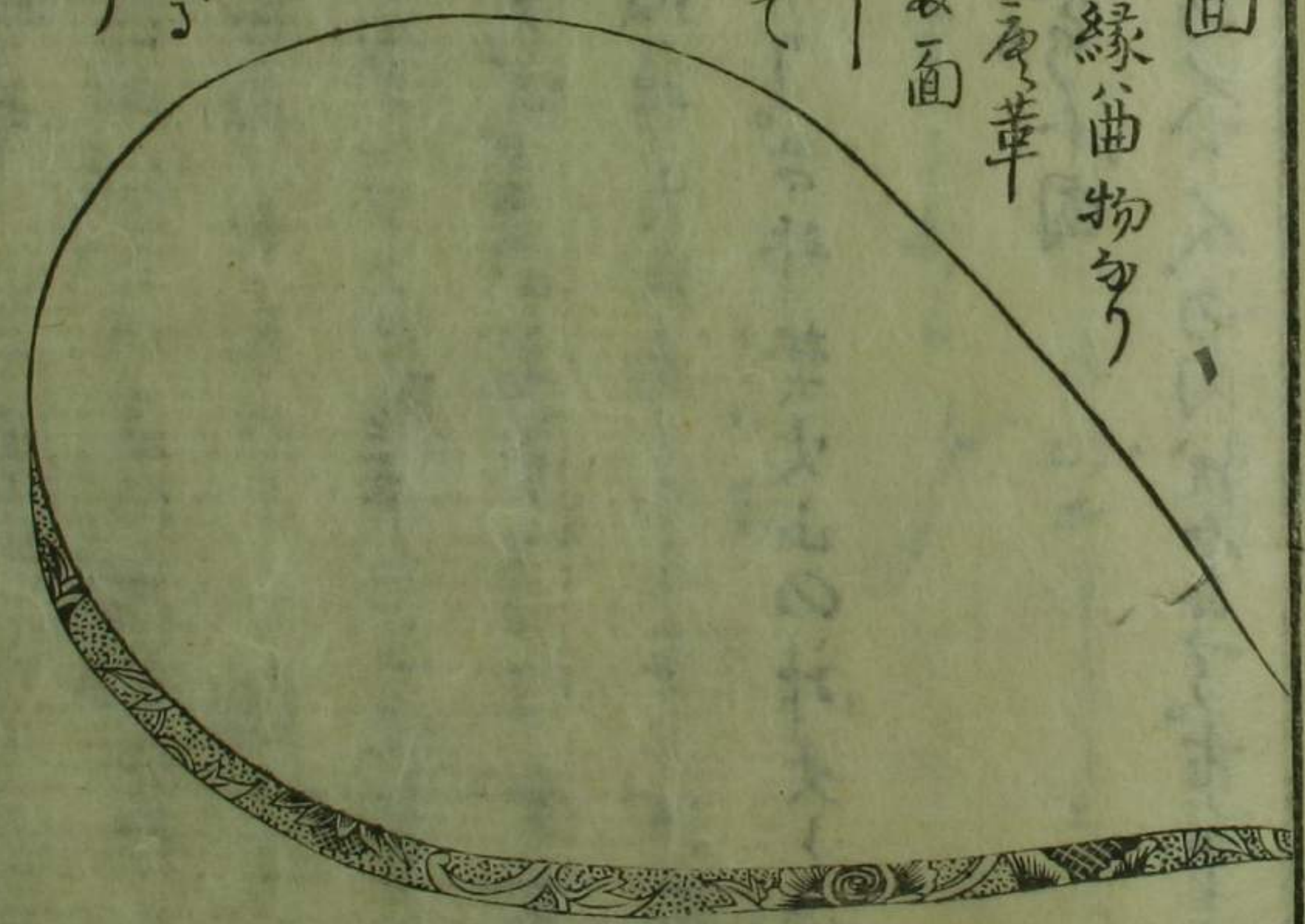
縁柄もに金屋革
みてききより表面
とも三弦の革

のちきよ薄皮にて
張又アンペラ

もとも張革
みては古製

あり

此阮蓋吾家小
孫翁らるゆ先年
田村元雄先生あり
今彼家よりあり



○海上の神火

洋中めて船の時。船先の方の海面小神火の現る
やうな時。その船かあゝど恙か——蛮人コフレエー
ルと号く。カールデンブーリ書の名も況あり。一昨年
あり——カビタン役名「ロンベルゲ」人名印帝亞の海上
めて船の時。彼神火大は——河海——と。
赤兄の物語あり。昔邦禁火山の神火と同日の況
あり。

○人肉河海小國

「アビレニ」國迄のくく人の肉河海をす。市中人肉河海
てひさくあり。國中の罪人外玉の虜河海——て
高小。土人甚甚——がりて牙の——あり。是等の
奇況万々況中よわん。

○貧院

歐羅巴國中よ「アルムホイス」といふ府あり。明又——
て貧院と云。是國王より達るあり——て鰥寡孤獨
瘡病の者河海あり。ききき慈然吾折河施——とす
——國あり

○幼院

同國中に「井スホイス」といふ府あり。明人幼院と況す。

その中、中のみ、大、窮、あ、る、者、の、何、せ、る、も、奉、り、ひ、る、べ
き、か、ら、あ、る、。又、その、何、級、を、ハ、國、林、と、犯、せ、る、者、と、そ、の、
友、國、王、と、合、の、方、便、何、以、て、その、何、達、下、賤、の、者、の、ま、
わ、い、ど、を、ら、い、ま、り、れ、ど、が、あ、る、人、の、あ、る、も、没、け
ら、る、府、あり、。其、の、何、の、ま、た、あ、り、て、か、ら、い、其、に、
ま、ま、く、ば、役、人、内、より、應、じ、く、を、な、ま、さ、る、何、抱、入
ら、る、り、。を、年、月、日、何、記、し、し、牌、と、よ、の、物、を
ま、ま、し、む、ま、し、り、後、を、い、て、あ、る、ま、し、り、と、し、り、時、
先、に、よ、府、の、の、何、記、し、し、。年、月、日、何、記、し、し、
彼、等、に、投、り、し、し、。先、の、牌、し、し、合、せ、て、ま、し、り、
其、府、の、中、の、ハ、儀、儀、の、師、匠、あり、て、男、女、の、何、を、
不、の、儀、何、教、由、男、子、ハ、十、歳、を、か、ぎ、り、。達、路、何、あ、り、て
府、と、い、し、の、何、に、よ、後、世、と、い、し、る、者、也、。女、子、ハ、十、五、歳
何、路、り、。今、路、と、い、し、て、嫁、し、し、む、と、し、り、。あ、る、
玉、中、絶、て、捨、る、あ、る、し、し、。

○病院

同、中、に、「ガ、ス、ト、ホ、イ、ス、」と、い、ふ、府、あり、。明、人、病、院、と、い、
す、此、府、ハ、甚、廣、大、に、構、え、し、り、。何、友、多、し、。外、國、より、來、り、
不、の、使、客、并、に、玉、中、の、病、者、ハ、半、を、扱、し、り、。ま、ま、し、り、
し、む、医、師、者、病、人、卧、具、病、架、し、り、。ま、ま、し、り、。備、え、て

願ふも。中なかつの大おほきき人ひと月つき輪りんはけ府ふとあら
う。又また國中くにちゆうのきづ病びやう難なん災さい難なんにかり
し。又またははねああるめい三さん院いんの難なん費ひにああつる重おもげ殿たんのうを
施せ入いままごごとと哲てつ新しん御ごしてして成せい就じゆうの上うへとと考こう附つ
ままああり。又また雲うん船せんの軸じくのち方ににアルアルムムススカカスス
ととふふああわわり。アルアルムムススカカススハハカカススハハああの
るるああり。けけ相さうはは彼か玉たまの定じやうああわわり。船せん中ちゆうの者もの。
願ねんををああつつ時とき成せい就じゆうののううへへけけああらら何なに等とうの物ものはは入いべ
ししとと祈いのりををままささししるるなり。けけああ船せん長ちやう「カカビビクク」ににあり
ししも。私わたくしはは守まもるるああららず。本ほん玉たまへへ帰かへ帆はんの上うへはは人ひと

立た合あひひて。彼かああ所ところ所ところ見みままささもも内うちへへ施せ入いの令しやうとと三さん院いん
の難なん費ひ小せうああわわりりととあり。アルアルムムススカカススののううへへ以上いじやうの三さん條じやう。
雲うん書しよ中ちゆうの況きやうあり。尾お張ちやう屋や友とも七しちたたりり者ものの持もちちててふ
雲うん画がよ。此こゝ之の院いんとと畫えししるるハハああらら中ちゆう良ら書しよあり。中ちゆう良ら書しよあり。
本ほん朝あさ聖せい武ぶ天てん皇わうの御ご宇う。施せ業ぎやう院いんああららひひ末ま尾びの悲ひ因いん院いんを
達たちちああつつ。御ごりりととししるるハハああららひひ今いまもも東とう都との
小せう石いし川がはよ。養やう病びやう院いん以い達たちちららひひて。瘡そう病びやうの者ものとと瘡そう甚しん重じゆうにに
ららししるる。施せ業ぎやう院いんのの名な妙めうあり。有あるる難なんきき御ご意いととあり。

○飛行の蓋

け蓋ハ。進しん時じ拂はら郎らう察さつ國こくの都みやこ把は理り斯しととりり地ちああてて新しん製せいをを

リクトスロープ之旨



所あり。拂印察めてハ「左イレイリス」の如く。紐をあげてハ

「リクトレキップ」リクトレキップは船なり又「リクトスロープ」スロープは小舟

「リクトバル」リクトバルは球「エントゴルヒル」エントゴルヒルは人のニまめて

「カルスエロペルト」カルスエロペルトは人割て製成也。船の長さ一丈余。幅四尺余。

深サと同し。人二人を載べし。船底は二重小艇なり。其内舟

鉦の漣ニをへりけ漣移しの用方あり。又「檣」煉鐵して

長長四丈余。帆席をひきて。檣の端に球を附し。球は革を以て造る

多量なり。あり。檣の舟小設ける。螺絲は舟の端にあり。舟は舟の端にあり。舟の端にあり。

艇船中の人艇を動し。帆綱をわやどむる。上下縦横を

のまゝ飛行す。若空中小風ある時。檣へ帆を懸けり。

一人河〜と紅の丸方不役け〜。風をぬぐひとあむねの車の
 齒めて風を切り進退せぬわくあり〜とせ〜。ふり〜
 といふ。龍橋世子の秘藏〜とあり。新刻の壺画を申〜
 ついて模写〜。此画は去秋長崎へ寄つて舶来〜とあり。況ふ下は
 今春長崎君〜とあり〜とあり。況ふ下に
 記〜といふ。小文の傳文を切意〜とあり。猶〜
 子説ハ傳みま〜とあり。次編ハ載〜。

紅毛雜話卷之一

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

